

## 船舶事故調査報告書

平成23年9月1日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵 男（部会長）  
 委員 山本 哲 也  
 委員 石川 敏 行

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成23年1月31日 23時00分ごろ～23時40分ごろの間）
発生場所	不明（広島県尾道市百島 <sup>もも</sup> と同市加島 <sup>か</sup> の間の錨泊場所）
事故調査の経過	平成23年4月6日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	ケミカルタンカー 第二英明丸 <sup>えいめい</sup> 、499トン 137232、内海船舶有限会社 64.98m×10.00m×4.50m、鋼 ディーゼル機関、1,176kW、平成14年7月
乗組員等に関する情報	船長 男性 55歳 三級海技士（航海） 免許年月日 平成11年11月24日 交付年月日 平成21年4月17日 有効期間満了日 平成26年11月23日 一等機関士 男性 44歳 四級海技士（機関） 免許年月日 平成12年12月28日 交付年月日 平成22年9月16日 有効期間満了日 平成27年12月27日
死傷者等	死亡 1人（一等機関士）
損傷	なし
事故の経過	本船は、船長及び一等機関士ほか4人が乗り組み、平成23年1月31日に海上試運転などを行ったのち、21時15分ごろ、百島と加島の間に投錨した。 機関長は、一等機関士と共に機関室で作業を行ったのち、23時00分ごろ、一等機関士に休息を指示し、自身は書類の整理を続けた。 機関長は、23時40分ごろ、仕事を終えて自室に戻る途中、一等機関士が部屋にいないことに気付いた。 機関長は、その後、一等機関士が部屋にも食堂にもいないことから、一等機関士に電話をかけたが出なかった。 翌2月1日00時00分ごろ、乗組員全員で船内の捜索をしたが見付からず、00時40分ごろ、海上保安庁などに連絡した。 一等機関士は、4月4日、広島県因島市因島の地蔵ヶ鼻付近の海上で発見され、のち、溺死の疑いがあると検案された。

<p>気象・海象</p>	<p>気象：1月31日  23時00分 風向 西、風力 2、気温 1.6℃  2月1日  00時00分 風向 西南西、風力 2、気温 1.6℃  01時00分 風向 西、風力 2、気温 1.9℃  海象：穏やか</p>								
<p>その他の事項</p>	<p>一等機関士は、本事故発生前、次のような状況であった。  ① 機関室を出たあとの一等機関士を見た乗組員は、誰もいなかった。  ② 服用している薬はなかった。</p>								
<p>分析</p>	<table border="0"> <tr> <td data-bbox="518 544 810 577">乗組員等の関与</td> <td data-bbox="817 544 1449 577">不明</td> </tr> <tr> <td data-bbox="518 586 810 620">船体・機関等の関与</td> <td data-bbox="817 586 1449 620">不明</td> </tr> <tr> <td data-bbox="518 629 810 663">気象・海象の関与</td> <td data-bbox="817 629 1449 663">不明</td> </tr> <tr> <td data-bbox="518 672 810 705">判明した事項の解析</td> <td data-bbox="817 672 1449 994"> <p>一等機関士は、溺死の疑いがあると検案された。  本船は、百島と加島の間において錨泊中、一等機関士が、23時00分ごろ機関室を出たのち、23時40分ごろ機関長が部屋にいないことに気付いたことから、この間において、落水した可能性があると考えられるが、落水した状況を明らかにすることはできなかった。</p> </td> </tr> </table>	乗組員等の関与	不明	船体・機関等の関与	不明	気象・海象の関与	不明	判明した事項の解析	<p>一等機関士は、溺死の疑いがあると検案された。  本船は、百島と加島の間において錨泊中、一等機関士が、23時00分ごろ機関室を出たのち、23時40分ごろ機関長が部屋にいないことに気付いたことから、この間において、落水した可能性があると考えられるが、落水した状況を明らかにすることはできなかった。</p>
乗組員等の関与	不明								
船体・機関等の関与	不明								
気象・海象の関与	不明								
判明した事項の解析	<p>一等機関士は、溺死の疑いがあると検案された。  本船は、百島と加島の間において錨泊中、一等機関士が、23時00分ごろ機関室を出たのち、23時40分ごろ機関長が部屋にいないことに気付いたことから、この間において、落水した可能性があると考えられるが、落水した状況を明らかにすることはできなかった。</p>								
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が百島と加島の間において錨泊中、一等機関士が落水したことにより発生したものと考えられる。</p>								